

八ヶ岳 小同心クラック

小暮

【日時】2006年12月3日(日)

【メンバー】小暮(L)、笹川

昨日の赤岳主稜に引き続き、今日は小同心クラックで岩を登る。行者小屋から中山乗越をこえて赤岳鉱泉まで歩く。人工氷瀑のアイスキャンデーは、今年の暖かさのせいか、全く凍っていない。小同心クラックの取り付きまでは、大同心沢の踏み跡から大同心稜を登る。昨夜は雪の天気であったが、20cm程度の降雪だったろうか、雪が少ないため踏み跡がはっきりと分かりやすかった。急な大同心稜を喘ぎ喘ぎ登る。途中で先行の4人組のパーティがあり、抜きつ抜かれつとなる。大同心基部からは、岩のバンド沿いに大同心沢をトラバースする。急な雪壁となっており、緊張感のあるところだ。メンバーによっては、先頭はザイルが欲しいところかもしれない。取り付きが分かるか心配だっただけに、何度か来たことのある様子の先行パーティがいるのは助かった。

取り付きでは、順番待ちとなりツェルトを被る。先ほどの先行4人が登るまで1時間であった。人気ルートなので仕方ない。

1ピッチ目は小暮リード。緩傾斜のフェースから立ったチムニーとなっている。両足を広げたダイナミックな動きが必要だが、ホールドはガバなので思い切って登っていく。テラスでは、先行パーティがビレイしているのので、手前のペツルアンカーのところでピッチを切った。2ピッチ目も小暮リード。最初の岩が少々難しい。オーバー手袋を外して薄手袋になったらホールドが掴めて登ることができた。チムニー抜け口あたりは、両足でステミングの体制になる。3ピッチ目は笹川リード。凹角を登って、小同心の頭の先でビレイ。トポとはピッチのきりかたが若干違ったようだ。

ここからは傾斜の緩い雪稜となり易しいので、コンテの体制で登る。一箇所、岩を越える部分だけ注意が必要だ。ロープを出すと2ピッチ程度だと思う。ここを抜けると横岳ピークに出た。思ったより早く登りきることができた。小同心クラックは3ピッチと短かったが、かなり立っていて完全にアイゼンでの岩登りで楽しい登攀であった。横岳からは、何度か歩いたことのある稜線だ。地蔵尾根を下って行者小屋へ。テン場でのんびりしてから下山した。



【行程】

12/3 行者小屋(7:25)～赤岳鉱泉(7:50)～小同心取付(9:40/10:45)～横岳(12:30)～行者小屋(14:25/15:10)～美濃戸口(16:40)

【地図】八ヶ岳西部、八ヶ岳東部